

一般社団法人大学英語教育学会（JACET）中部支部 2024年度第2回定例研究会プログラム

日時：2025年3月1日（土）13時00分～15時35分

会場：南山大学Q棟（Q314）

オンライン同時配信も開催します（Zoom）

参加方法：JACET中部支部ホームページ（<https://jacet-chubu.org/studygroup/>）より、
事前に参加申し込みをお願いします（参加無料）

開会挨拶 13時00分～13時05分 支部長 鎌倉 義士（愛知大学）

臨時支部総会 13時05分～13時15分

実践報告 13時20分～13時50分 司会 内田 政一（桜花学園大学）
Effects of Receptive and Productive Vocabulary Learning on TOEIC Test Results
Ekaterina Arshavskaia（静岡県立大学）

研究会研究発表 13時55分～14時25分
ライティング研究会 司会 木村 友保（名古屋外国語大学）
英語専攻学生にとっての'Good' Argumentative Essay Writing の規準に関して
柴田 直哉（名古屋外国語大学）

講演 14時30分～15時30分 司会 柴田 直哉（名古屋外国語大学）
「書く力」をどう伸ばすか：新時代のライティングフィードバックについて考える
保田 幸子（神戸大学）

閉会挨拶 15時30分～15時35分 副支部長 今井 隆夫（南山大学）

発表概要

実践報告 13時20分～13時50分

Effects of Receptive and Productive Vocabulary Learning on TOEIC Test Results

Ekaterina Arshavskaia (静岡県立大学)

While receptive knowledge tests like the TOEIC test remain a standard measure of L2 progress at Japanese universities, bridging the gap between the receptive and productive skills remains an ongoing challenge. Previous research suggests that one of the major predictors of TOEIC performance is vocabulary (Kanzaki, 2015; Chiang, 2018), but often it often focuses only on receptive vocabulary skills. However, the effects of teaching productive vocabulary skills are unclear. Therefore, this study compares the effects of instruction focused on receptive (word recognition) and productive (use of context-appropriate words) vocabulary skills on the TOEIC test results. Two groups of undergraduate students (A2 CEFR level) at a Japanese university took a mandatory TOEIC test-taking English class. One group conducted weekly vocabulary practice through multiple-choice tasks, while the other learned to use appropriate L2 collocations in context. Testing included a vocabulary test targeting 2000- and 3000- frequency level words (Nation, 1990), a collocational accuracy test (Koya, 2003), and a TOEIC-type test. Results showed significant vocabulary improvement in both groups after a 15-week course. The productive skills group outperformed the receptive skills group on 3000-level words, but displayed greater performance variability. This might suggest that productive skills development benefits higher proficiency levels (3000-level words) more than lower ones (2000-level words). However, neither group showed significant gains on the TOEIC-type test. Possible limitations include the testing format, which may not effectively measure productive skills, and limited length of instruction period, which may have been too short to capture delayed learning effects.

研究会研究発表 13時55分～14時25分

ライティング研究会

英語専攻学生にとっての'Good' Argumentative Essay Writing の規準に関して

柴田 直哉 (名古屋外国語大学)

本発表では、英語専攻大学生にとっての'Good' Argumentative Essay Writing の規準とその構築要因を報告し、生成 AI が急速に発達してきている現在どのようなライティング指導・教材が必要になっていくのかを考察していく。

講演概要

14 時 30 分～15 時 30 分

「書く力」をどう伸ばすか：新時代のライティングフィードバックについて考える

保田 幸子（神戸大学）

外国語で書く力を伸ばすために、教師が学習者の文章に対して出すフィードバックは欠かせないものである。その重要性から、第二言語ライティング研究では、フィードバックの効果を最大化するために、どのようなフィードバック（例：直接的か間接的か）を、どのような項目（例：内容・構成・語彙・文法）に対して、いつどのように出すのか（例：プロセスかプロダクトか・焦点型か非焦点型か）に関して、国内外で幅広く実証研究が行われてきた。しかし、生成 AI によるフィードバックと自動添削の性能が劇的に向上している昨今、ライティング指導におけるフィードバックのあり方も大きく変わりつつある。新時代におけるライティングフィードバックのあり方について、学習者の書く力を伸ばす役割を担う教師も、新しい視点と選択肢を備えることが求められている。

本講演では、まず、1990 年代後半から約 30 年にわたり活発に行われてきたライティングフィードバック研究について振り返り、蓄積されてきた知見と理論的枠組みについて概観する。そして、2025 年現在の生成 AI によるフィードバックがどのように外国語で書く力を育てるのかについて議論する。生成 AI と人間の教師が互いの強みと弱みを補完し合うことで、これからのライティング指導において、どのような新しいフィードバックの形が考えられるのかについて、参加者の皆様と議論したい。

講師プロフィール

保田 幸子

神戸大学大学院国際文化学研究科・国際コミュニケーションセンター教授

ハワイ大学大学院第二言語研究科博士課程修了（PhD in Second Language Studies）。

専門は、第二言語習得、第二言語ライティング、ジャンル分析。

アカデミックライティングに関する研究・指導を専門とし、広く学外においても、

医師やエンジニアを対象とした論文執筆法に関する講演やセミナーなど社会貢献活動に従事している。

主な著書に、『「書く力」の発達：第二言語習得論と第二言語ライティング論の融合に向けて』（くろしお出版 2024 年）『英語科学論文をどう書くか：新しいスタンダード』（ひつじ書房 2021 年、大学教育学会 JACUE セレクション 2022 受賞）がある。研究成果は、*Assessing Writing*, *Journal of Second Language Writing*, *TESOL Quarterly*, *Journal of English for Academic Purposes* などの国際誌に掲載されている。

会場のご案内：南山大学 Q 棟 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

<https://www.nanzan-u.ac.jp>



2024 年度第 2 回定例研究会(3 月 1 日)

参加申し込みサイト

<https://forms.gle/DJGGCawRcZW6CCns7>

事務局からのお知らせ

- ☆ JACET 中部支部大会（6月7日）の研究発表を募集いたします。
発表時間は30分(20分間の発表と10分間の質疑応答)となります。
締め切りは3月20日（木）です。奮ってご応募ください。
発表言語：日本語または英語
発表申し込みフォーム：<https://forms.gle/dcTGujqM5q1BZEA9>



2025年度 JACET 中部支部大会

大会テーマ：「Instructed Second Language Acquisition：教室で何がどこまでできるか」
日時：2025年6月7日（土）
会場：名城大学 名古屋ドーム前キャンパス

Date: 7th June, Saturday

Venue: Meijo University, Nagoya Dome-Mae Campus

Length of Presentation: 30 mins (20-min presentation followed by 10 mins discussion)

Submission Deadline: 2025/03/20

Language: Either Japanese or English

基調講演者、シンポジウム、発表申込等の詳細は、以下のリンクより随時更新される
支部大会ホームページ、Facebook、Xをご確認またはフォローしてください。

Web: <https://jacet-chubu.org/convention/>

Facebook: <https://www.facebook.com/profile.php?id=61557530017477>

X: <https://x.com/JACETchubu>

どうぞ皆様、日ごろの研究成果をご発表いただけますようお願いいたします。

お問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：静岡大学 大瀧綾乃研究室内

otaki.ayano@shizuoka.ac.jp